

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立八次中学校	校長氏名	迫田 隆範	生徒指導主事氏名	宮部 英巳
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『生徒会活動と連携した積極的生徒指導』

取組のねらい『キーワード 自己肯定感の向上』

平成 26 年度の学校の状況は、暴力行為（1 件）触法行為（1 件）問題行動（30 件 *この内、特別な指導 11 件）いじめの認知件数（2 件）不登校（2 名）であり、服装の乱れ、授業妨害、授業エスケープ、指導に従わない、暴言、携帯、等の不要物の持ち込み、自転車通学違反、地域の施設や登下校でのマナーの悪さ、生徒間トラブルなどが課題として挙げられる。問題行動を繰り返すのは一部の生徒であり、生徒同士の指摘がなかなかできない状況が、全体の落ち着きのなさにつながっている。現状の改善のためには、生徒自身の自己肯定感を向上させ、自分が学校や地域社会の一員として認められる場をつくり、生徒同士の結びつきを深め、自治活動を活性化させることで問題行動の減少につながると考えた。そのため、生徒会活動やボランティア活動等の、生徒の自治活動や主体的な活動の推進を行った。

取組の具体的内容『キーワード 無理なく』

平成 27 年度の取組としては、生徒会と連携し、まずは不十分な掃除から見直すことからはじめた。掃除中に全員掃除ができないことから、掃除の班自体を見直し、縦割りの掃除班をつくった。3 年執行部を中心に掃除リーダーが掃除に入り、集合から解散まで掃除リーダーが掃除を運営する形を実行した。（無言清掃の取組）平成 26 年度 3 学期より実験的にスタートし、少しずつ変更を加えながら現在に至っている。また、これと並行して生徒会活動の一環としてのボランティア活動の充実を意識させ、放課後 15 分間の自由参加のボランティア活動を計画し実行している。



取組の課題・創意工夫『キーワード 同時に』

年度途中でまったく新しいことを始めるよりも、現在の方法を改善し修正を加えることで、生徒に運営をまかせ、それを教職員が補助するといった意識の転換から、掃除をやりきる方向へスムーズな移行を目指した。また、実験的に年度途中から行うことにより、もしうまくいかなかったら方法は改善するというやり方で、生徒と教職員の負担感を軽減した。また、これと並行してボランティア活動を生徒会から計画し実行に移すことで、掃除と同じくボランティアの意識の向上を生徒に意識させた。

取組の成果（効果）『キーワード 自分たちで』

縦割りの掃除班での掃除は、取組前と比べて確実に向上した。特に、掃除リーダーへの指導を事前に行うことで、教職員が掃除に関する指導をする場面が少なくなった。また、新 1 年生には掃除の方法や、流れを全体で生徒会が指導し、実施前に指導する形をとったことも成果が出ている要因である。また、ボランティア活動もペットボトルキャップ分別、折り鶴制作など、計画して実行し、各回約 100 名程度の生徒が参加している。



今後の展開『キーワード 改善』

掃除を徹底させるためには、生徒のボランティア意識の向上にも同時に取り組むことが必要である。生徒自らの自治活動で実行するよう、促す方法をとろうとする取組であり、良い点も多く見られた。一方で、掃除場所の担当教職員の不足、掃除の点検表への記入、ボランティア意識等の課題もあり、少しずつ改善を行っている。また、掃除を無言で行うという部分では、まだ課題も多い。しかしながら、掃除の質は確実に以前よりもよくなっていることから、さらに目的意識をもたせ、自己肯定感の向上につながるよう取組の充実を図る予定である。

また、自治活動の活性化のため、各委員会ごとに活動を決め（各学級の掃除評価合計、各学級の日々の授業評価合計、各学級の本の貸し出し数合計等）、学級単位で評価をして、学期に1回表彰を行うYATSUGI PRIDE CUP（YPプロジェクト）という取組も今年度から導入している。これらの取組を通して、生徒のボランティア意識を向上させたいと考えている。



他校へのアドバイス『キーワード 教職員の意識向上』

生徒の意識変革の前に、指導する教職員の意識変革が不可欠である。この部分では、まだ十分といえる段階ではない。今後も教職員を含めて意識の向上を図り、生徒会への働きかけにより自治活動の活性化につなげていきたい。